



イトマンの仲間



仲間とは・・・一緒に物事をする間柄。

水泳は個人競技というイメージですが、リレー種目もあり団体競技でもあります。

友達と一緒に楽しいし、辛い練習も乗り越えることができるでしょう。

学校が違う「イトマンの友達」を作り、一緒に**1級合格卒業**という目標に向かって頑張っていけるように仲間づくりも大切です。

また、友達を作るとは社会性を身につけることにつながります★

イトマンに通う生徒は、進級するたび新しい友達、メンバーで練習行い

そのたびに友達を作っているためコミュニケーション力を養うことができます。

一方で・・・

1) 子どもたちは気の合う限られた集団の中でのみ、コミュニケーションをとる傾向があります。

また、コミュニケーションをとっているつもりが

実際は自分の思いを一方向的に伝えるだけという指摘があります。

2) インターネットを通じたコミュニケーションが子どもたちに普及している一方、

外での遊びや自然体験等の機会の減少により、身体性や身体感覚が乏しくなっていることが、

他者との関係づくりに負の影響を及ぼしているとの指摘もあります。



さまざまなことを共有することで

仲間意識が強くなる！！

● ミッションの共有

例) 各クラスのテストポイントがミッションになります！

● 目標の共有

例) 合格、卒業という目標を目指します★

● 感情の共有

例) フールが楽しい・合格して嬉しい等の感情を共有します。



子どもたちは人との関わりの中で、他人との葛藤を通して試行錯誤しながら**社会性**を身につけていきます。

子どもが最初に社会的スキルを学ぶのは親からですが、そのうち仲間からも多くを学ぶようになります。

人と関わる機会が増えるほど、人との関わり方もうまくなっていきます。

そうすることで、同じ目的を持った多くの仲間の中で行動や発言力（表現力）も徐々に確立していきます。

大事なことは子どもが**他者との間で有意義な絆を築けるようになる**ことです。

人の気持ちを知り、うまく人づきあいができるようになること。

そして、**困った状況にも適応できるスキルを身につける**ことです。

- ・ 人の話を聴く
- ・ 段階を踏む
- ・ 規則に従う
- ・ 気が散るものを無視する
- ・ 助けを求める
- ・ 順番に話す
- ・ 人と仲良くする
- ・ 人に怒らない
- ・ 自分の行動に責任を持つ
- ・ 人のためになることをする



米ヴァンダービルト大学では、8000人の小学校教員を対象とした調査と20年にわたる研究を行い、子どもたちが学校生活で成功を収めるために必要な社会性スキルトップ10を発表しました（左記に掲載）。

ここで重要なポイントは協調性のある子どもをつくるよりも

自己主張をしながらも人のことを気にかけられる子どもになるようになることです。

そのために私たち大人はポジティブな社会性の模範を示すため

知らない人と仲良くする、人を助ける、我が子に敬意を持って接する等

他者とかかわるときの行動に自信を持つことが大切です。

一緒に遊び、社会的な模範を示し、人間関係の構築を助け

仲間と共に成長できるようにお子さまを見守っていきましょう★